

令和2年 年頭のごあいさつ

静岡福井県人会 会長 武長敏彦

会員の皆さまに於かれましては、令和の新時代になって初めての新年を清々しくお迎えになったことと、お慶び申し上げます。

本年は、本会創立30周年の節目の年を迎えることとなります。

30年間積み重ねてきた歴史を今日迎えらることは、先ずは会員の皆さまの弛みないご支援とご協力と共に、初代より歴代の会長様、その時々役員各位のご尽力の賜ものであることから、先輩各位のご努力、ご労苦に対し衷心より感謝申し上げます。

今後更に40年、50年と積み重ねていくのが私共の責務であると認識し、決意も新たに致しているところであります。

本年はオリンピックイヤーで、何かと明るい話題が多いなか、故郷福井県では早期開業が待ち望まれる北陸新幹線の工事も順調のようで、2023年に開通した暁きには多くの会員皆さまと故郷へ出向き、お祝いムードを一諸に楽しみたいものです。

私共県人会に於いては、本年も「ワンチーム」となって会員相互の親睦を深め合える行事を企画すると共に、故郷福井県への応援、支援を続けることも忘れてはならないことであります。本会の会員も年々高齢化しておりますが、各位に於かれましては、先ずは日々ご壮健で 過ごされながらも、引き継ぎのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

合掌

創立30周年記念式・祝賀会を盛大に！！～更なる発展を誓って～

静岡県内に在住、在勤する福井県出身者とその家族や、福井県にゆかりのある人、などで構成した会員相互の親睦を図ることと、故郷福井県を想う心が一つになって活動する目的で創立された「静岡福井県人会」が今年で30周年を迎えることになりました。

これも偏に会員の皆さまのご支援、ご協力と熱意の賜ものであると存じます。

そこで節目の30周年記念行事として、去る1月26日(日)に中島屋グランドホテルを会場にして、記念式・祝賀会を開催致しました。

式典には、ご来賓として福井県東京事務所の吉田所長様、棗主任様をお招きし、また福井県の杉本現知事、



栗田元知事、元福井県名古屋事務所の歴代所長の増山様、前田様、吉村様、そして静岡県の川勝知事など多くの方々からお祝いのメッセージを頂戴しました。式典では物故者への黙祷。会長の挨拶。30年のあゆみ、そしてご来賓の祝辞を。祝賀会では創立当時の様子を思い起こしての話題や、又懐かしい思い出話を語り合い、結びには福井県と静岡県が尚一層発展することを励みとして、私共も努力することを誓い合いました。

当日の総合司会は、ベテランの眞野さんに務めて頂きました。参加会員はやや寂しくなりましたが、間近かになって体調不良で欠席者する人が多くありました。第1部の式典では、先ず創立当初から今日迄に17名の会員が残念ながら亡くなられており、その方々のご冥福を祈る為に黙祷を、次に武長会長が挨拶に立ち、今日こうして皆さまと共に30周年を祝うことが出来るのは、偏に先輩方各位の長年に亘ってのご努力の賜ものであることに感謝申し上げますと共に、今後も更に40年、50年と歴史を積み重ねていくのが私共に課せられた責務であると、その為我々会員は正に「ワンチーム」となって、更に活動を前進させなければならないと同時に福井県と静岡県の更なる発展の為に、その架け橋となって努力しなければならない・・・と挨拶された。続いて沿革「30年のあゆみ」で会長から、本会が創立するに至るまでの8年間もの準備で生みの苦しみ話や、創立してから今日迄に取り組んできた主な行事として、故郷福井への帰郷ツアー。富士山や白山登山。公開特別講演会の開催。などの報告を。次にご来賓の吉田所長様からの祝辞で福井県の現況や北陸新幹線の工事の進捗状況とその先の大阪迄のルートなどの説明のあと、今後も福井県と静岡県との繋がりをより深めるような活動をしていきたい・・・旨の挨拶がありました。最後に記念写真撮影を終えて第1部が終了しました。

第2部の祝賀会に入り、司会者からの開会宣言で開始され、玉木前会長の乾杯の発声でいよいよ歓談タイムとなり其々歓談を・・・暫くして本日の参加者を小林事務局長から簡単な紹介があり、その後余興に入り最初はビンゴゲームで担当は中村、内田、嶋田さんらで、ゲーム説明のあとご来賓の吉田所長様から賞品を進呈しますよ・・・の一言で一同が張り切った。その賞品は福井の特産米「いちほまれ」でした。それを見事にゲットしたのが佐々木さん、それ以降の人には故郷から取り寄せた特産品の羽二重餅、水ようかん、煎餅などから好きな物を・・・全員にお渡しすることにした。あと漢字読みゲームで魚への難解な漢字をどう読むか？笑いながらの知能ゲームとなった。そのあと司会者から直撃インタビューで歴代会長の谷田、飯田、玉木さんらに30年の回想などを・・・、続いて深水、米野、三宅さんらにも近況などを。終宴近くでは、事前に承知していましたが、会員の加藤さんが転勤で3月に静岡を離れることに・・・。同氏は3年前に東京霞が関の厚労省から静岡市役所の保健福祉の職場に着任され、その任務を終えて再び元の職場へ戻ることの由。お別れの挨拶をして頂いたあと会長がご苦労様でしたと会員一同からの粗品をお渡しした。いよいよ終宴で「ふるさと」を三宅さんの指揮で合唱を。吉川さんの閉会の辞。最後は飯田さんによる三本締めですべてがお開きとなりました。

午前11時に始まり午後2時30分迄で、あまり時間の長さを感じさせない終始和やかな雰囲気の中で本日の創立30周年記念式・祝賀会の記念行事を終え、とても思い出に残る式典となりました。

合 掌

つながる北陸新幹線

開業に向けての整備状況と開業後の効果は？

2023年春の福井県敦賀までの開業に向けて、着々と整備が進む北陸新幹線の工事はあわら市と石川県の境にある加賀トンネル(5.4キロ)が、昨年10月に貫通して両県のルートが初めてつながり、金沢、東京への扉が開いた。金沢～敦賀間の整備区間は約151キロ、その内福井県内が75キロ、全体の50%が完成しており、特に12本あるトンネルの内9本が貫通。最も長い北陸トンネル(19.7キロ)が今春貫通する予定。トンネルだけでは68%が完成した状況という。

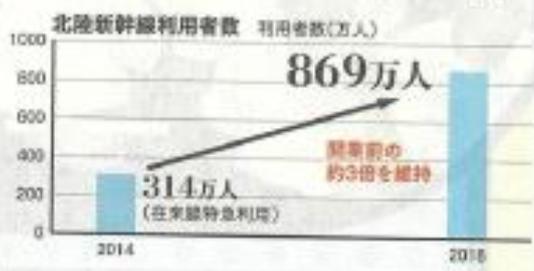
次に開業後の効果について、石川県の事例によると2015年に金沢まで開通したことにより、金沢～東京間は最速2時間28分で結ばれ、それまでよりも1時間以上と大幅に短縮された。それにより県外より観光で訪れる客数は、開業前よりも300万人以上も増加、外国人が宿泊する人数は2倍以上、北陸新幹線を利用して訪れた人は約3倍近くになっている。また、金沢まで開業後には石川県内に多くの県外の企業が支店や営業所を新設したり、更には金沢大学への東京都出身者の志願者数が倍増するなど、大きな社会的効果が生じているという。



福井県と石川県をつなぐ北陸新幹線加賀トンネルの貫通を祝う記念式典(29日、石川県加賀市(田中宗彦撮影))



— 福井新聞より記事を抜粋 —



観光列車で 御食国堪能

— J R小浜線 初運行

J R小浜線で京都丹後鉄道のレストラン列車「丹後くろまつ号」を運行するイベントが25日、始まった。2023年春の北陸新幹線敦賀開業に向けた機運醸成や嶺南の広域観光の推進が目的で、同線で観光列車が運行するのは初めて。敦賀～小浜駅と小浜～西舞鶴駅で26日まで運行する。

小浜市で26、27日に開かれる「御食国・和食の祭典」に合わせ、県や嶺南6市町、J R西日本などが企画。列車は地元食材を使った料理の提供や高級感ある内装が特徴で、乗車券は8月末の発売後、約1週間で完売した。

敦賀市のJ R敦賀駅で行われた出発セレモニーには、杉本達治知事や沿線市町の首長らが出席。杉本知事は「新幹線開業に向けて、敦賀から先に観光客を連れていく必要がある。（今回のイベントを）丹後くろまつ号のような観光列車を走らせるきっかけにしたい」とあいさつした。



J R小浜線に初めて乗り入れた観光列車「丹後くろまつ号」で食事を楽しむ関係者＝25日、敦賀市内（柿木孝介撮影）

その後、杉本知事ら関係者約20人を乗せた列車は小浜駅に向けて出発。へしこや小鯛の笹漬けなど県内の食材が入った弁当が提供されたほか、停車駅で町職員や地元園児らが歓迎した。列車を一目見ようと若狭町の三方駅を訪れた岡田恵美さん（47）＝同町気山＝は「イベント列車は誘客に効果的だと思う。料理に地元食材を使っているのも良い」と笑顔で話した。

（新谷貴之）



J R三方駅で停車する「丹後くろまつ号」＝若狭町の同駅（柿木孝介撮影）

— 福井新聞より —

◆事務局より

1) 令和2年度 定期総会のご案内

令和2年度の定期総会を以下の要領にて開催しますので、会員の皆さま方万障繰り合わせのうえ、是非ご出席下さいますようお願い致します。

1. 開催日 令和2年4月26日（日） 正午12時より
2. 場所 中島屋グランドホテル
3. 会費 6,000円
4. 議案
 - ①令和1年度の事業報告及び会計報告
 - ②令和2年度の事業計画案及び予算案の審議
 - ③その他

※ 同封のハガキに、出・欠 を記入のうえ、期限内に投函をお願いします

2) 駿河湾フェリーツアー

4月18日（土）に駿河湾フェリーのツアーを計画していますので興味のある方は事務局までお問合せください。